

祐介の目

(No.171)



大田祐介 (福山市議会議員)

地消地産とは

第五次福山市総合計画において、福山市の次なる百年に向けた基本計画と総合戦略を一本化した「福山みらい創造ビジョン」の素案が示された。福山市の今後の大方針であり、これからパブリックコメントも募集するので、ぜひ皆様も意見を寄せていただきたい。

さて、素案は大学教授等による有識者会議でも検討されており、提言書に「地消地産」を目指すべきとある。地消地産とは、地域で消費するものは地域で生産するという考え方で、地産地消とは視点が異なり、消費を起点に地域の食料自給と経済循環を目指すものだ。地消地産は「消費」が先で、この地域で消費したいものをどうやって地域内でできるかと、地域での生産を超えてより踏み込んだ「地域自給」の概念で、経済の地域内循環を重視している。つまり一次産業に限らず、様々な取組みがある。ビジョ

ンにおいても、もの作りのまち福山において人材不足を解消するために市立大学に情報工学部を新設して人材育成し、新たな産業団地も検討して雇用の場も創出する。その新産業団地に必要なエネルギーはローズエネルギーセンターで発電する等、すべて地消地産の考え方に基づくと言える。

福山市における地域自給率を正確に計るなら産業連関表が必要だろう。しかし、この作成には大変な労力を伴うので、福山デニムや福山ワインの取組みのようなわかりやすい地域内循環を目指せば良い。地消地産は決して新しい考え方ではなく、昭和年代まではどこのまちも取り組んでいたのではないか。私のワイナリーのある山野町は百年前から水力発電所や薪炭でエネルギーを自給してきた。住民から「自分は松茸の売上で大学に行かせてもらった」という話も聞き、つい最近まで地消地産のまちだつたと実感した。このような地域自給のまちを循環型農村経済圏「スマートテロワール」と呼ぶ。みらい創造ビジョンがうたう「誰もが安心して豊かにいきいきと暮らせる、夢と希望あふれる社会」が実現するだろう。